

「男の介護教室」を大阪で



小石剛 大阪府開業

私たちは昨年11月に地元の大阪・池田市で「男の介護教室」を立ち上げ、この1月に第2回を開催した。各回とも20人ほどの男性高齢者が参加し大好評をいただいている。

教室を開催して、これほど社会のニーズに合い、しかも楽しい取り組みはないと実感した。

教室は、座学と介護実習、そして教室の柱である調理実習で構成され、自分たちで作った料理を食べながら介護経験

や悩みなどを話し合うおよそ3時間のプログラムが組まれている。

第1回は元祖、石巻の「男の介護教室」代表の歯科医師、河瀬聡一朗先生から男性介護者の現状や、男の介護教室の目的について学ぶとともに「食べることにしても学ん

だ。

第2回は「救急車が来るまでにできること」として「もしも身内が倒れたら」をテーマに、河瀬先生とともに一般社団法人日本地域統合人財育成機構の塚本知恵子先生にご講演をお願いした。

「介護を行う者の3分の1

して片付けだけで1日が終わってしまう。

男性特有のまじめで不器用な性格から、誰かに助けを求めることができず、簡単に行き詰まってしまう。

悲しい出来事が起こってからは遅い。起こらないように、介護や調理のワザを磨き

して地域の訪問診療を進めていくなかで、連携している医師やケアマネジャーと「男の介護教室」を立ち上げた。

その講演を聴いて「なんとか地元の大阪池田でも開催したい！」という衝動が沸き起こった。数日後、一緒に地域活動をしている仲間の特別養護老人ホームの施設長、山田直輝さんに相談を持ちかけた。

すると、なんとすぐに、ぜひ取り組みたいというお返事をいただいた。このような取り組みが待たれていたのだ。

日本全国、同じような状況ではないだろうか。生涯口から食べられる口腔を守るプロフェッショナルの歯科から声をかけて、「男の介護教室」の輪が広がっていくことを願っている。

ちなみに池田の男の介護教室第3回は3月21日、介護・介護の実技とともに「介護食を作ってみよう」をテーマに開催する予定である。

全国への広がり期待

は男性である」。考えてみれば、男性が介護を行う場合があるのは当たり前のことなのだが、いざ自分が介護する立場になると考えると、本当に不安である。

また「介護における虐待は、男性の方が3倍も多い」ことも学んだ。介護疲れからくる虐待は、実は男性に圧倒的に多い。仕事一筋で頑張ってきた、家事はもとより食事を作るのも初めて、ましてや毎日

三度の食事の用意と介助、そ



①調理実習。真剣な眼差しで包丁を使う②河瀬氏の講演を聴く参加者



②河瀬氏の講演を聴く参加者